

Ikiiki
Maebashi
Jin



大胡城・牧野氏まつり実行委員会会長
松本 浩一さん・78歳
大胡町

地域の歴史を多くの人に広めたい

11月14日(土)に開催される大胡城・牧野氏まつりの実行委員会会長を務める。10年ほど前から、仲間と共に大胡城址を見学したいという人に城址や関連史跡の案内をしてきた松本さん。今回の祭りでは地区内外の多くの組織・団体と協力し準備を進めている。

「初めてで勝手が分からず、祭りには来てほしいが駐車場不足も心配。公共交通機関での来場を呼び掛けなくては」と祭りの準備に余念がない。今回の祭りのメインイベントのひとつである川越藩鉄砲隊の武者行列では、大胡中の生徒も20人ほど参加する。

「城址は知っていても、大胡の殿様牧野氏のことは知らない人が多い。祭りをきっかけに、少しでも多くの人が地域の歴史に興味を持ってもらいたいですね」とうれしそうに話す。

戦国時代末期に牛久保(愛知県豊川市)から大胡へ、その後長嶺・長岡(新潟県)へ移り、幕末まで長岡藩を治めたという牧野氏。豊川市や長岡市とはその歴史を通じ、それぞれに交流があるという。「大胡での居城はわずか26年間でしたが、城址が残っているのはここだけです。これからも大胡城址を基点に交流を続けていきたいですね」松本さんの地域の歴史への思いは世代や地域を超え、大きく広がっていくだろう。



銀輪で挑む難コース

9月27日に、まえばし赤城山ヒルクライム大会が開催されました。ことしは北は青森県から南は沖縄県までの約3,500人がエントリー。あいにくの雨模様となりましたが、全国屈指の難コースに挑むヒルクライマーたちに、沿道からは熱い声援が送られました。



サッカーを通じて国際交流

9月19日から21日まで、大胡総合運動公園などで、国際交流サッカー大会U-12前橋市長杯を開催しました。参加した国内外の48チームは、持ち味を生かしながら熱戦を展開。また、海外チームは、ホームステイや臨江閣訪問などを通じて日本文化を体験しました。

秋の実りを刈り取る伝統行事

9月23日、宮城地区で粟の献穀拔穂祭を開催しました。地区内持ち回りで皇室に献上する粟を栽培して65年。ことしは地元の小学生も参加し、早男・早乙女姿でたわわに実った粟を刈り取りました。刈り取り後には粟赤飯が振る舞われ、秋の実りを堪能しました。



ちょっとした工夫で日常生活は快適になります。この連載では消費生活啓発員が日常生活に役立つ情報をお知らせ。第4回は、「塩と砂糖」についてです。

塩と砂糖を上手に保存

□体の中の塩の働き
神経に働きかけ刺激や命令を伝える、細胞を健康に保つ、



胃で食べ物を消化し小腸で栄養素の分解と吸収を助ける、体の水分量を一定にするなどの働きがあります。

塩の保存方法

ごま塩などの加工された物については賞味期限がありませんが、塩にはありません。塩は湿度の変化で固まるため、風通しがよく直射日光が当たらない場所で保管すると固まりにくくなります。固まったら、油を引かず軽く炒ります。食卓塩の場合は、炒った米粒を容器に入れておくとサラサラの状態を保つことができます。

体の中の砂糖の働き

疲労時の栄養補給に高い効果を発揮。また、脳や神経が働くときにエネルギー源となります。

砂糖の保存方法

砂糖は水分量の変化により固まります。袋ごと缶やプラスチック容器に入れ、外気を遮断して保管したり、グラニュー糖を少量入れたりしておくくと固まりにくくなります。固まってしまったら、水滴を2、3滴かけて密封する、容器の中に食パンを入れるなどしてください。

問い合わせは 消費生活啓発員の会
027-2330-1755